

炭

三年

画数 9
筆順
オン
クン
すみ

山 山 山 炭



岩 ↓ 炭 ↓ 炭 ↓ 炭 ↓ 炭 ↓ 炭

「岩(年105)」という字の「口」のぶぶんをはぶいてそのかわりに「火(年9)」という字をはめこんで作った字で、「火がつく岩」「もえる岩」といういみの字です。今の「石炭」をあらわした字です。

しかし、わが国では、「木炭(すみ)」のいみにつかっています。ただし、「炭田」「炭鉱」など、熟語では「石炭」のいみにもつかっています。

「炭の音のタンは岩の変化したものである。「漢」や「緩」でカンと発音される「萁」や「爰」が、「嘆」や「暖」ではタン(ダン)と発音されるように、カン(ガン)はタン(ダン)に変化しやすいのである。」

成り立ち

使い方

▽むかしの汽車は石炭をたいて走らせるじよう気きかん車でしたから、黒いけむりが入って顔が黒くなることもありました。

▽むかしは木炭が、にたきやさむさをふせぐのにつかわれました。炭酸ガスや一酸化炭素がへやにこもらないように気をつけたものです。

熟語例

- ▽石炭(大むかしの植物が地下にうずもれて、長い間に炭化して黒い石のようになったもの。炭化のすすんだものは黒くつやがあり、無煙炭といえます。)
- ▽炭化(生物を作っているものが分解して、酸素や水素がなくなり、炭素だけがのこること。)
- ▽炭田(石炭のとれる土地)
- ▽褐炭(茶褐色をした石炭。炭化度がひくく、しつがわるい石炭。泥炭はもつともしつがわるい。)
- ▽木炭(木をむしやきして酸素や水素をのぞき、炭素だけをのこしたものを。「すみ」といいます。)
- ▽炭素(生物の成分の一つ。もえる「酸素と化合すること」と炭酸ガスや一酸化炭素になります。)

短

三年

画数 12
筆順
オン
クン
みじかい

肉 ↓ 短 ↓ 短 ↓ 短 ↓ 短 ↓ 短

「小さい」といういみにつかわれる「豆」と、「矢」の形をあらわした「矢」とを組み合わせて作った字です。

「豆矢(豆のように小さな矢)」といういみの字です。「豆自動車」「豆本」というつかい方と同じものです。ふつうの矢よりも短い矢ですから、「みじかい」といういみにつかわれます。例短刀、短歌、短小、短気。

また、「長さが「足りない」といういみから、「足りない」↓「おとつている」といういみにもつかわれます。例短所、短慮。

「豆は、祭祀に用いる器具の形を表した象形字で、わが国でいう「高杯」を表した字である。「まめ」の用法は、「菘」の仮借である。」

成り立ち

使い方

▽和歌といえば、五七五七七の三十一音でできているとおもいこんでいる人もありますが、それは短歌であって、そのほかにもつと長い長歌もあります。

▽ぼくの短所は短気です。「短気はそん気」ですから、なおすようにどりよくしたいとおもいます。

熟語例

- ▽短歌(五七五七七の三十一音でできている詩。五七の句をいくつもかさねて、おしまいを五七七でむすぶ長歌にたいして、短いので短歌といえます。ふつう、和歌といえば、この短歌のことをいいます。)
- ▽短所(おとつている所(点)。足りない点。欠点)
- ▽短気(気短か。気がせかせかして、ものごとがおちついてできないせいしつ。また、おこりっぽいこと。)
- ▽短縮(短く縮めること。例短縮じゆぎよう夏冬のあつさむさをさげるため、じゆぎよう時間を十分ほど縮めることがあります。)
- ▽短兵急(短兵は短い兵器の刀や剣のこと。刀や剣を手にてきにせまることですが、多くは「短兵急な話」というように「急」のかざりことばとしてつかいます。)